



いちよう

山形市立第四小学校

校長 村上 ゆかり

<児童数 187名>

〒990-0055 山形市相生町4番37号 TEL 623-6019 FAX 633-9321

創立112周年 おめでとうの気持ちを一人一人の姿と歌声に



10月1日の創立記念日を前に、先週の金曜日に、たくさんのご来賓の皆様をお迎えして112周年記念式典を行いました。アリーナ後方には、昨年度卒業のきずな学年をはじめ、大正時代から10周年間隔で存蹟の作品が飾られ、全校生で鑑賞する時間を設けました。子どもたちは「剛毅果敢」や「積善の家に余慶有り」といった難解な言葉が、同じ年代である卒業生の作品として記されていること、さらには存蹟が百年以上前から続いており存蹟館に大切に保管されていることに改めて驚いていました。児童代表としてお祝いの言葉を述べた6年生 山澤幸生さんの、「存蹟を見ると、先輩方とのつながりを感じる」という言葉の通りです。さらに幸生さんは、四小の好きなところとして「校歌」をあげてくれました。先日行われた同窓会総会においても、第42回卒業生であり奨学会顧問の茂木賢一様や同じく第42回卒業生であり第四地区社会福祉協議会会長の小笠原良男様が、現在の校歌が制定された当時の様子や感動、地名等の固有名詞が入ることなく、理念や校風を刻んだ歌詞の素晴らしさを語ってくださいました。来賓の皆様とともに歌った校歌は、アリーナいっぱい響き渡りました。次月、11月17日に行われるいちよう音楽会では、地域の皆様や保護者の皆様とともに校歌を歌い、歌声と心を合わせて伝統をつないでいきたいと思っています。



6年生は、お辞儀・立ち方・座り方の学習において範を示し、式では厳粛で清新な場を作ってくれました。

きずな学年の存蹟については、昨年お世話になった子どもたちが、一人一人の名前を確かめながら見入っていました。



『いちよう音楽会』へ ぜひお越しください。

日時 11月17日(金) 12時半 開演予定
場所 やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)
山形市双葉町1丁目2-38
内容 全校合唱 学年・学年部の斉唱及び合唱



*保護者の皆様には、子どもたちの下校時刻等も含めて、改めて詳細をお伝えいたします。

<式辞より>

明治44年、1911年に創立以来、今日（10月1日）は、私たちの学校、山形市立第四小学校 112歳の誕生日です。

本日、ここに、奨学会会長 遠藤哲也様、同窓会会長 矢野秀弥様はじめ、たくさんのご来賓の皆様をお迎えし、創立112周年記念式を行うことができますことに、心より厚く御礼申し上げます。学校の誕生日にあたり、皆さんと一緒に考え、取り組んでいきたいことをお話します。

今年、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類となり、昨年までできなかったいろいろなことが4年ぶりにできるようになりました。コロナ感染症が世界からなくなったわけではなく、まだまだ気を付けて生活していかなければなりません。直接お互いの表情を見ながら話すこと、楽しく会話をしながら食事をする、手をつないで活動することなど、以前はあまり気が付かなかったことの大切さに、改めて気付いたものが、たくさんありました。そのひとつに「みんなで声を合わせて歌うこと」があります。学校での音楽の授業だけでなく、私たちはいろいろな場面で声を合わせて歌を歌います。入学式や卒業式をはじめ、行事や大会などの式典においては国歌である「君が代」、県民歌や市民の歌、学校では「校歌」を歌います。では、なぜみんなで歌を歌うのでしょうか？

それは、目には見えないもの「敬う気持ち」「誇り」「希望」などを、歌を通して伝え、それぞれの心を合わせるとのことだと思えます。全国の小学校にはその学校の「校歌」があります。校歌には、その学校が大切にしていることや校風が歌詞に込められているのです。私たちの校歌は、「いちよう」という言葉にその思いが込められています。

昨年、いちようは世界で一番古い木であり、「生きた化石」とも言われていること、原爆にあっても生き抜き、暑さや寒さだけではなく公害にも負けない強い生命力をもって、人間と自然をつなぐ役割を果たしてきたことをお話しました。そのことが、校歌には「希望のしるし」「母校のまもり」という言葉で表されています。四小のシンボルである「いちよう」は、多くの困難にあってもくじけることのない自分自身の強い力をもち、未来をつくる一員となる、という私たちが目指している姿なのです。

112年の歴史の中で、本校を取り巻く社会は大きく変わってきました。外で遊ぶことができないほどの猛暑や災害につながる豪雨などの異常気象についても、かつて予測した人は少なかったことと思えます。子どもの数が減っていることで、できなくなったこと、変わらなければならないこともあります。

しかし、その中においても「自分たちはどうありたいのか」を問い、「未来をつくる」という思いは、第四小学校として、ずっと大切に受け継がれています。全校生で校歌を歌うことで、この思いを確かめ、大切に受け継いできたのだと思えます。

コミュニティスクールとなって2年目の今年、初めてご来賓の皆様と一緒に、本校の校歌を歌うことが叶います。

「もっと明日も来なくなる学校」を目指し、皆様と心と歌声を合わせることで伝統をつなぎ、ともに未来を拓くことができればと思います。



* 10月7日（土）資源回収への御協力をよろしくお願いいたします。